



2026年3月期 第2四半期決算説明会

2025年11月26日

代表取締役社長
實 吉 政 知

- 1. 事業の概要**
- 2. 2026年3月期 第2四半期決算**
- 3. 2026年3月期業績見通し**
- 4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
(アップデート)**



1.事業の概要

社名	株式会社テクノメディカ / Techno Medica Co. , Ltd
事業内容	臨床検査用分析装置、医療機器の研究開発、製造、販売、輸出及び、 これら装置で使用する消耗品の製造、販売
事業所	本社 研究開発センター、物流センター 支店　：大阪、名古屋、福岡 営業所：札幌、仙台、北関東、甲信越、広島、松山 出張所：盛岡、金沢、岡山
海外販売拠点	台湾支店（新北）
従業員数 （2025年9月末）	243（63）名、　派遣社員を含まず （　）内は、パート社員の人員を外数で記載

1987年9月
神奈川県川崎市高津区にて創立

1988年
全自動血液ガス分析装置の販売を開始

1991年
自動採血管準備装置の販売を開始

1997年
本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）

1998年
本社第2研究所竣工⇒研究開発部門の充実

2004年
ジャスダック証券取引所へ店頭登録

2005年
本社第3研究所竣工⇒研究開発部門+物流の充実

2008年
東京証券取引所市場第一部に指定

2009年
本社第4ビル竣工⇒生産業務施設の充実

2012年
ヘルスケアセンターを開設
⇒ヘルスケア部門の研究開発強化

2018年
採血管準備装置 ROBO7の販売開始

2019年
テクノメディカ台湾支店開所
横浜市緑区に物流倉庫を開設

2020年
採血管準備装置 ROBO900の販売開始

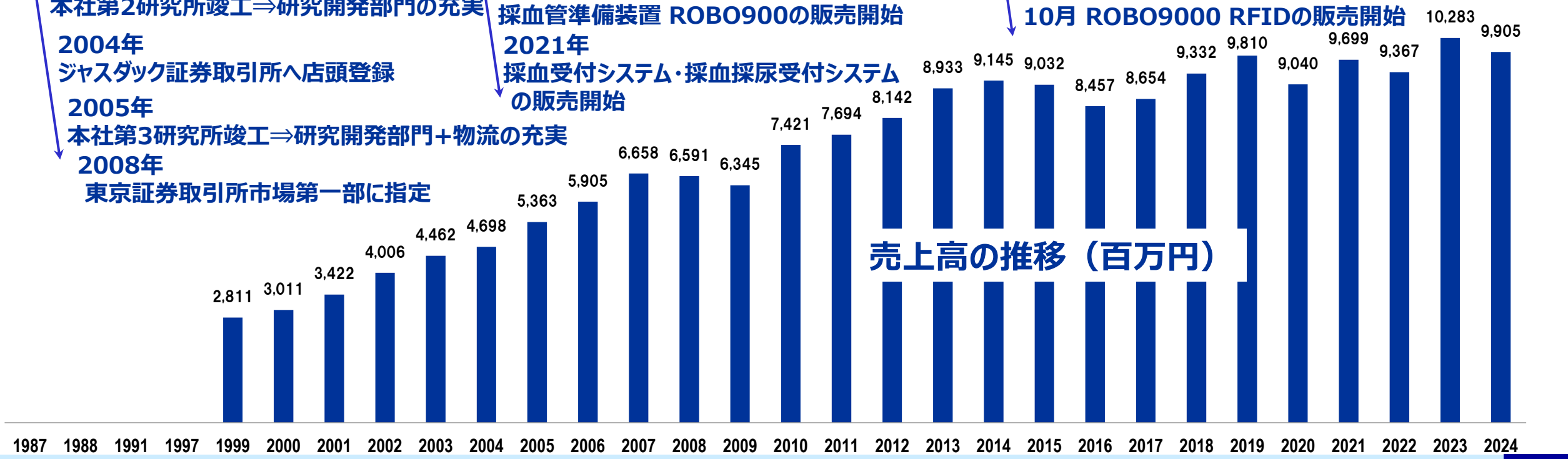
2021年
採血受付システム・採血採尿受付システム
の販売開始

2022年
東証プライム市場へ移行
8月 血液ガス分析装置 新製品GASTAT-Proの販売開始

2023年
1月 研究開発センターへ研究開発機能を全面移管
10月 東証スタンダード市場へ移行

2024年
3月 クラウド採血待合システムの販売開始
10月 尿中エクオール検査キットの販売開始

2025年
10月 ROBO9000 RFIDの販売開始



売上高の推移（百万円）

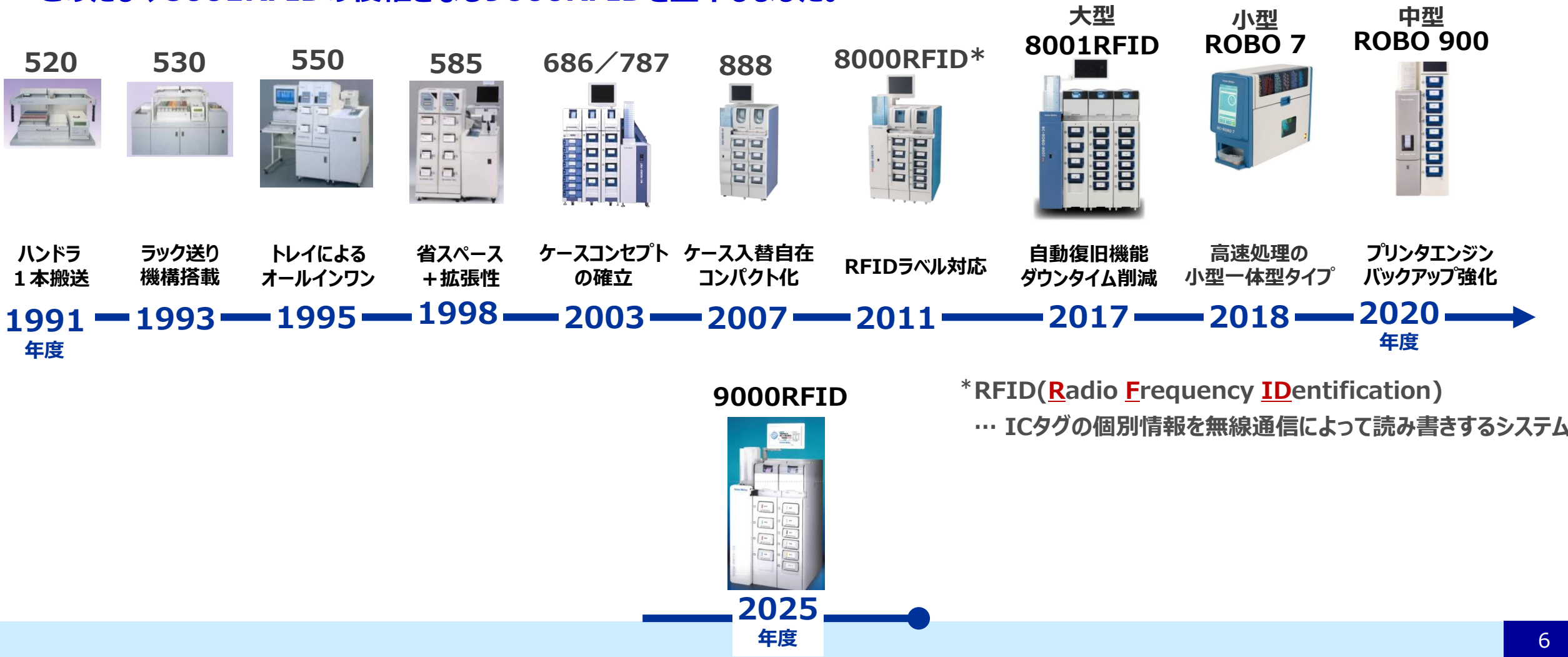
● 品目別に見た主要製品

製品名						
採血管準備装置・システム		採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID		卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7	RFID検体情報 統括管理システム TRIPS  アンテナボックス  採血管スタンド	全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID 
検体検査装置		血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル		コンパクト血液ガス分析器 GASTAT-pro	電解質分析装置 STAX-6 	<その他> 赤血球沈降速度測定装置等
消耗品等		センサーカード		ラベル		電極
						ハルンカップ
						<その他> 採血管準備装置および 検体検査装置の保守等
						尿中エクオール検査キット 

● 採血管準備装置・システムの歴史

CONFIDENTIAL

採血管準備装置・システムは、テクノメディカが他社に先駆け1991年に発売し、現在約2,500施設以上で稼働しています。
このたび、8001RFIDの後継となる9000RFIDを上市しました。



運用を重視する新設計、BC・ROBO-9000 RFID 誕生

自動採血管準備システム

BC・ROBO-9000 RFID

NEW Model
Debut!



プリンタエンジン・カッターユニットの「カートリッジ化」

プリンタ印字ヘッドとカッター部を脱着可能なカートリッジ式に進化させました。プリンタトラブル時にはユーザーご自身による交換が可能となり即復旧を実現。手貼りプリンタトラブル時の装置停止時間を大幅に短縮。



トラブルからの
即復旧



プリンタエンジン



カッターユニット



予備を本体内に
格納

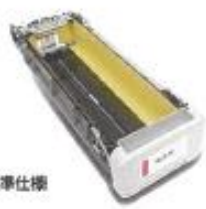


さらに使いやすくなった、採血管供給ケース

新採用の床ベルトで採血管詰まりを大幅に削減。多種多様な採血管の安定した取り出しを実現。また採血管のリトライ取り出しも可能となりました。



採血管ジャム
除去性向上



標準仕様



少量仕様



AI センサ搭載、採血管・手貼りラベルの残留検出機能

AI・センサが採血管とラベルのトレイ排出前に残留を検知し警告します。これにより1患者分の採血管とラベルを確実に発行し、混在を防ぎます。また、採血管排出時映像の記録ができるため、トラブル時の調査に活用できます。



運用効率の
強化



残留の状態と原因・経緯の
確認ができることで、
不完全なトレイの排出を抑制

排出部カメラライブ映像

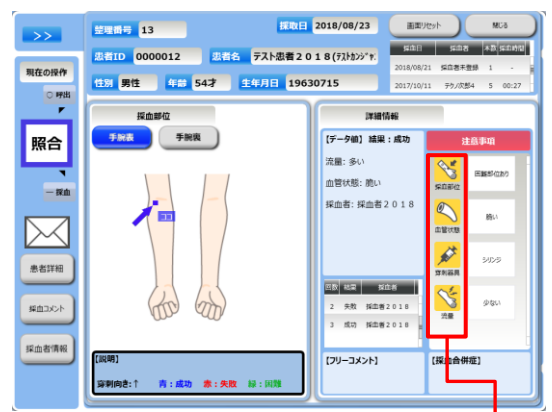
採血管(ラベル) 排出時映像

<採血管準備装置・システム>

● 採血業務支援システム Assist More



採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータルのサポートするオプション

安心・安全で より効率的な採血業務支援システム。充実のアシスト機能に多彩なオプションをプラス。新世代の採血業務へバージョンアップ。

Assist More オプション機能



● 採血顔認証



● クラウド採血待合システム
Smart Lounge



● 採血レコーダーシステム



● 予約採血コントロール

<検体検査装置>

● 全自動pH／血液ガス分析装置
GASTAT-700 Model

- データの信頼性を追求
- 長寿命設計で、低ランニングコスト
- IoTによりトラブルの予兆を検知



● コンパクト血液ガス分析器
GASTAT-Pro

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード



尿中エクオール検査キット

「EQUOTEST/エクオテスト」

ご自宅などその場で簡単・10分でエクオール産性能を調べられる検査キットが「エクオテスト」

< 展開先 >

- ECモールを使用した一般消費者へ直接提供
- 病院・クリニック様でご提供
- 女性の健康問題に取り組む企業様で福利厚生の一環として





2. 2026年3月期 第2四半期決算

売上高は前年同期並みであったが、コストアップにより売上総利益が減少したため、販管費は減少したものの、営業利益は、前年同期比△38百万円となり、当期中間純利益も同△18百万円の203百万円にとどまった。

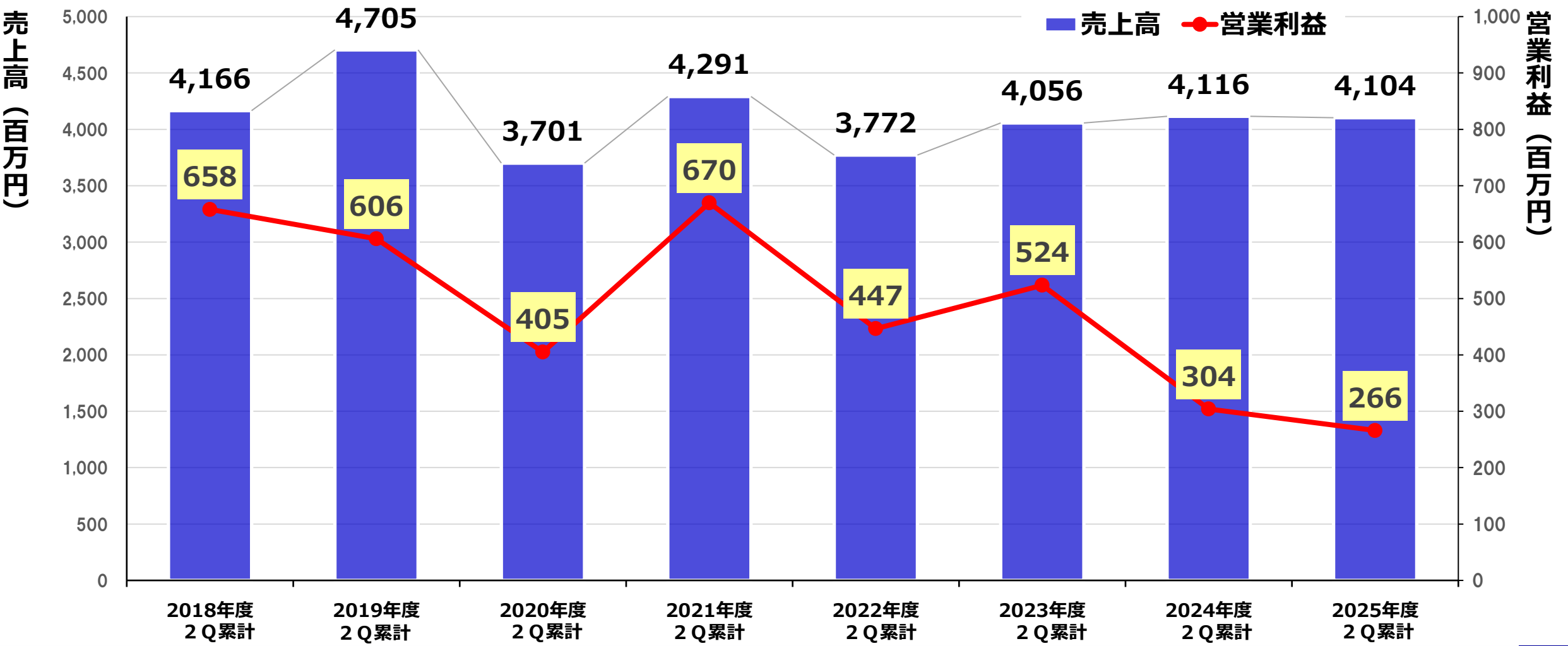
(単位：百万円)

	2Q累計	2Q累計	増減額	増減率
売上高	4,116	4,104	△12	△0.3%
売上原価	2,038	2,147	109	5.3%
売上総利益	2,078	1,956	△121	△5.8%
粗利率	50.5%	47.7%	△2.8pt	
販管費	1,773	1,690	△83	△4.7%
営業利益	304	266	△38	△12.6%
営業利益率	7.4%	6.5%	△0.9pt	
経常利益	298	294	△3	△1.4%
中間純利益	221	203	△18	△8.4%

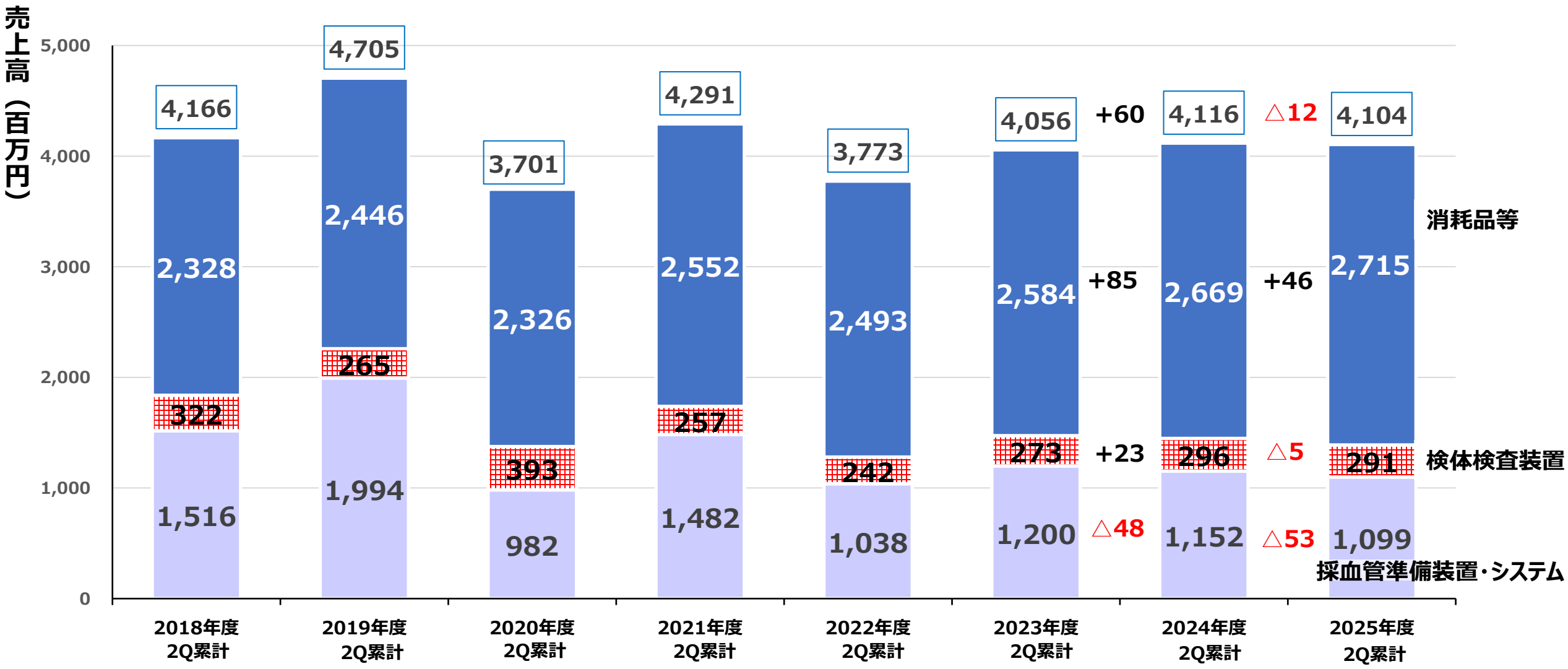
売上高 増減要因	採血管準備装置・システム (△53百万円) ⇒国内) 大規模施設向けの機器・システムの売上減少で、前年同期比△81百万円 海外) 主に東南アジア地域における売上増により、同+28百万円 検体検査装置 (△6百万円) ⇒国内) 主に血液ガス分析装置の売上が、卓上型・ハンディ型いずれも前年同期を上回り、+14百万円 海外) 中東地域を中心にアジア市場における売上が前年同期を下回り、△20百万円 消耗品等 (+46百万円) ⇒国内) 安定した需要が続き、前年同期比+64百万円 海外) 血液ガス分析装置の売上減少に伴い、同△18百万円
販管費 増減要因	△83百万円の費用減少の主な要因は、研究開発費の減少によるもの。 下期において、研究開発費は前年比増加し、加えて人件費、補修費も増加するため、販管費全体としては、年間で前年比+1.2億円増加の見込。

第2四半期 売上高・営業利益推移 **Techno Medica**

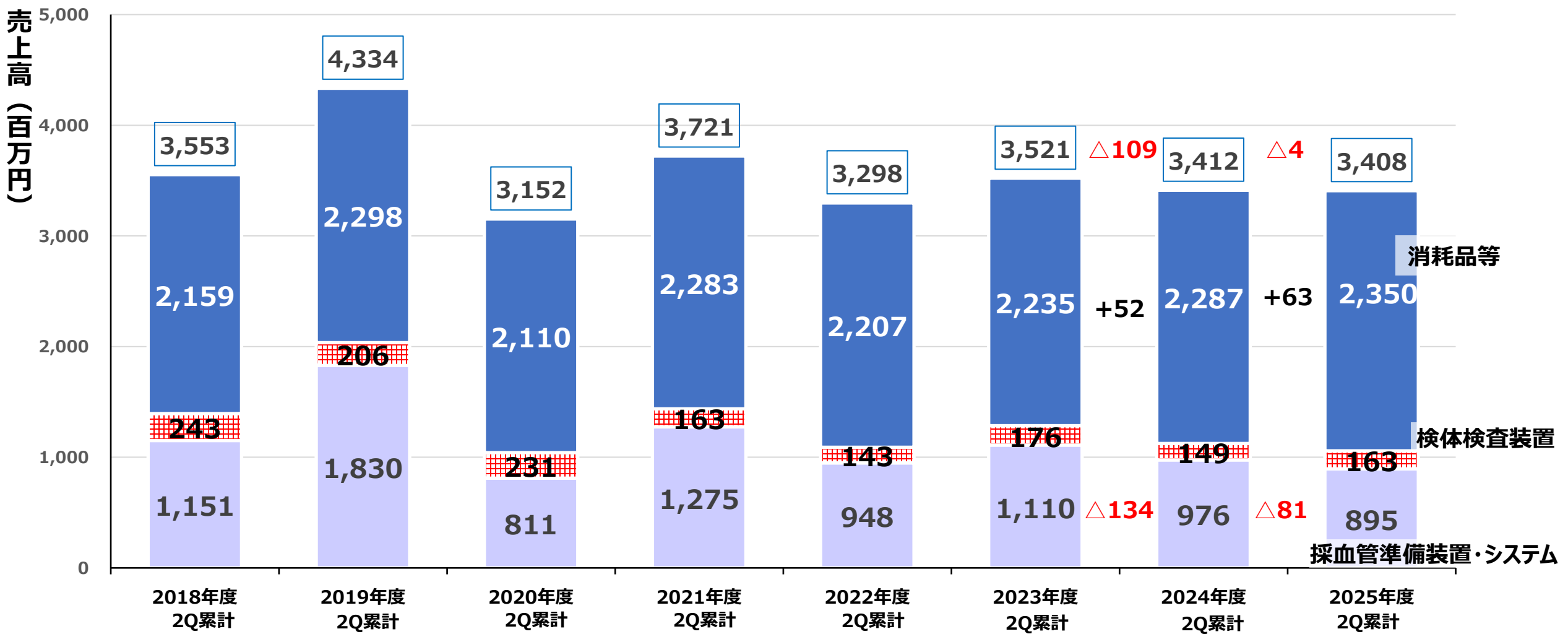
売上高は、41億円をキープしているが、営業利益は、24年、25年と販管費の増加等により、低水準で推移。



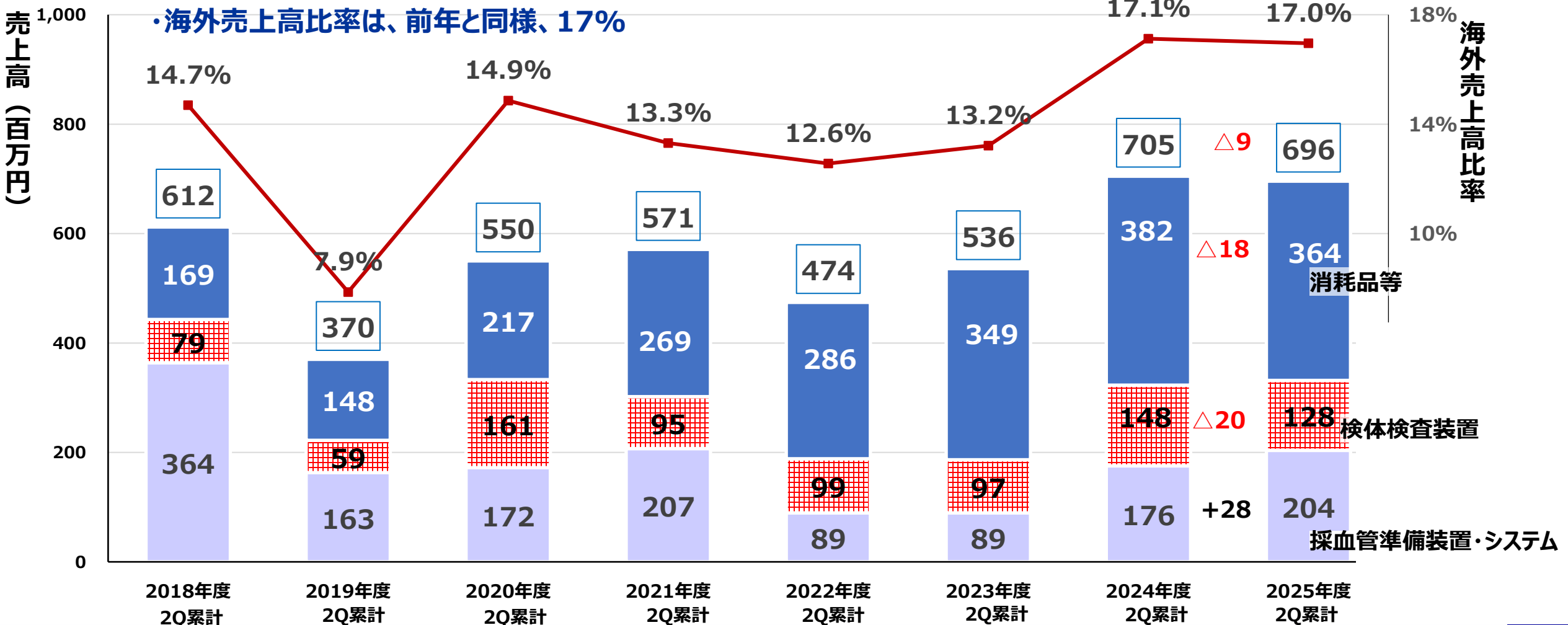
採血管準備装置・システムは減少も、消耗品等が堅調に推移し、全体の売上高は41億円をキープ°



・消耗品等は堅調に推移するも、採血管準備装置・システムが、低調に推移し、全体の売上高は前年並み



- ・25年度2Q累計の海外売上高は、前年と同じ水準をキープ。
- ・採血管準備装置・システムは、22、23年度の低迷から回復し、2億円まで増加。
- ・検体検査装置、消耗品等は、24年度で大幅増加となったが、25年度は減少。
- ・海外売上高比率は、前年と同様、17%



第2四半期 貸借対照表



25年9月末)・資産合計は166億円で、前年度末比△13.8億円の減少 (売上債権△14.9億円、棚卸資産+4.4億円、他)
・負債合計は 24.1億円で、同△11.4億円減少 (買入債務△8.9億円、他)
・純資産合計は141億円で、同△2.4億円の減少 (純利益+2.0億円、配当△4.7億円、他)

(単位 : 百万円)

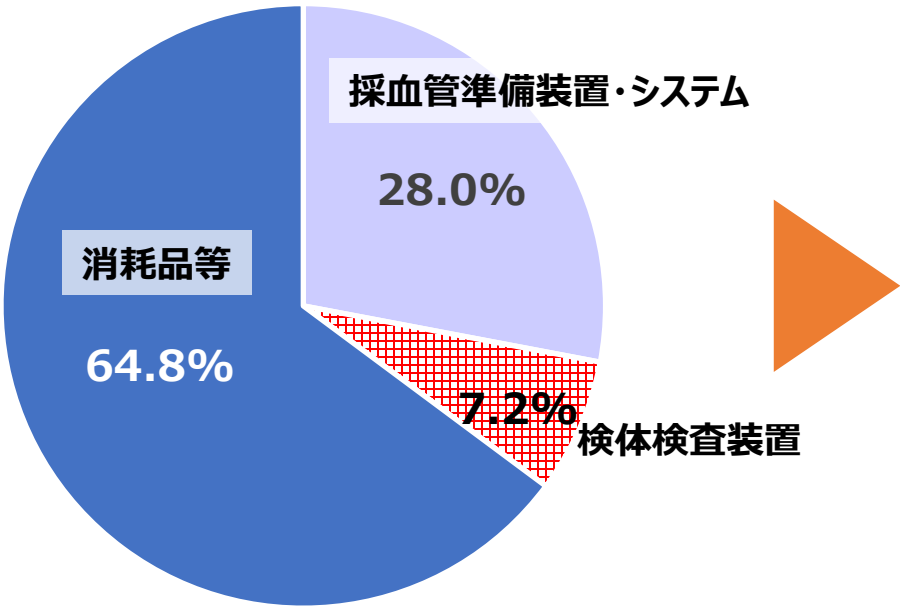
	25年3月末	25年9月末	増減		25年3月末	25年9月末	増減
流動資産	15,678	14,356	△1,322	流動負債	3,275	2,131	△1,145
現預金	9,061	8,808	△253	買入債務	1,576	691	△885
売上債権	3,905	2,413	△1,491	その他	1,700	1,440	△260
棚卸資産	2,607	3,051	+444	固定負債	274	278	+4
その他	105	84	△21	負債合計	3,550	2,409	△1,141
固定資産	2,260	2,202	△58	資本金	1,070	1,070	
有形固定資産	1,404	1,394	△10	資本剰余金	996	991	△5
無形固定資産	60	56	△4	利益剰余金	16,265	15,997	△268
投資その他	796	753	△44	自己株式	△3,942	△3,909	+33
資産合計	17,938	16,558	△1,380	純資産合計	14,389	14,149	△240
				負債純資産合計	17,938	16,558	△1,380

今期25年度2Q累計について、現預金等は2.5億円減少し、期末残高は88.1億円
営業活動によるキャッシュフローは、前年同期に比べ運転資金が増加し、11.6億円減の+2.7億円
財務活動によるキャッシュフローは、配当金の支払いで△4.7億円。

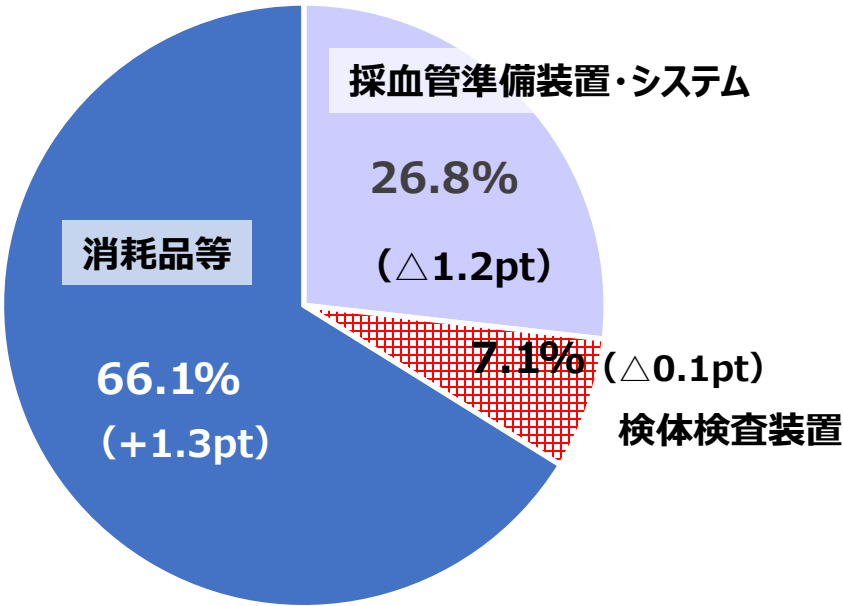
(単位：百万円)

摘 要	24年度 2 Q 累計	25年度 2 Q 累計	増 減
営業活動によるキャッシュフロー (A)	1,427	270	△1,157
投資活動によるキャッシュフロー (B)	△9	△52	△43
フリーキャッシュフロー (A+B)	1,418	217	△1,201
財務活動によるキャッシュフロー			
自己株式の取得	0	0	0
配当金の支払額	△470	△471	△1
小計 (C)	△470	△471	△1
現預金等増減 (A+B+C)	948	△253	△1,202
現預金等の期首残高	8,586	9,061	475
現預金等の中間期末残高	9,535	8,808	△727

24年2Q累計 売上構成

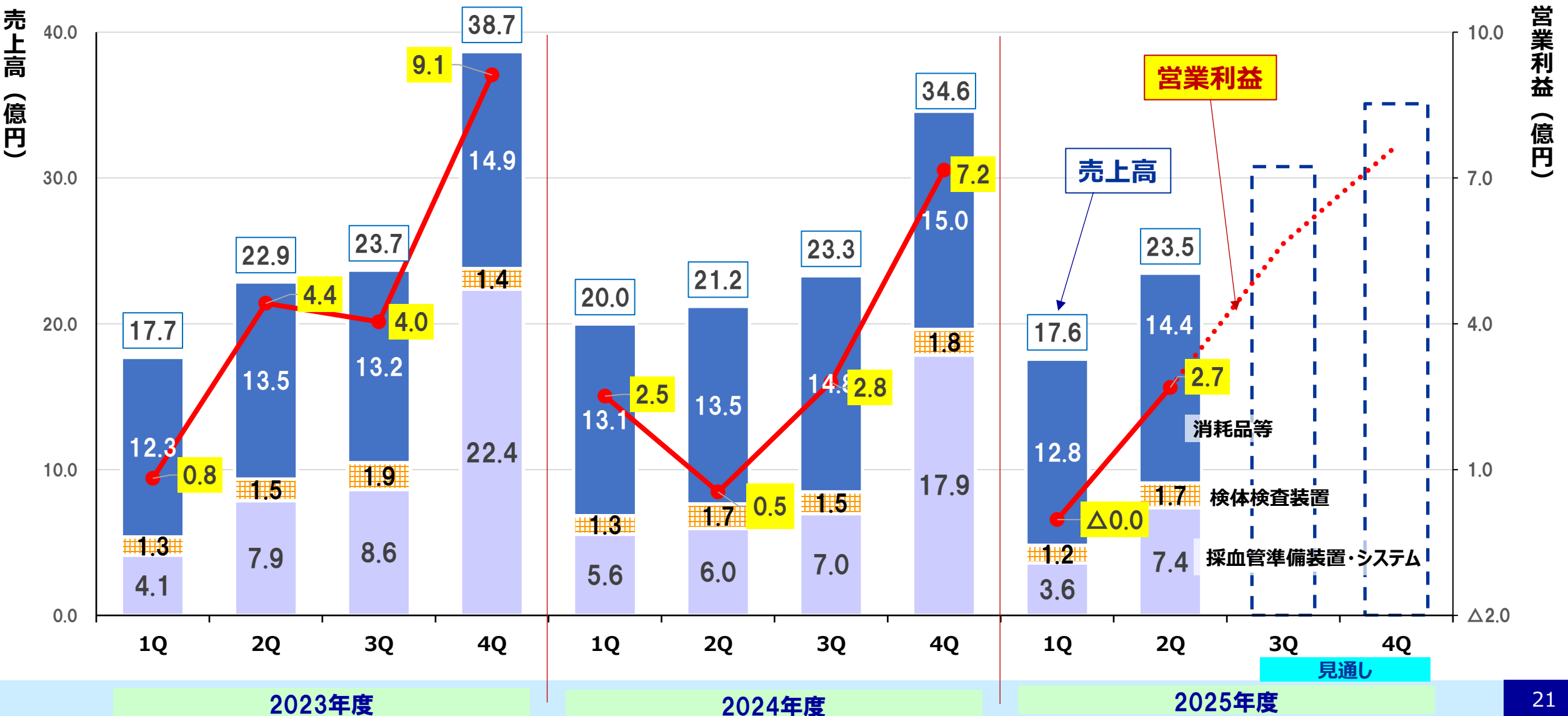


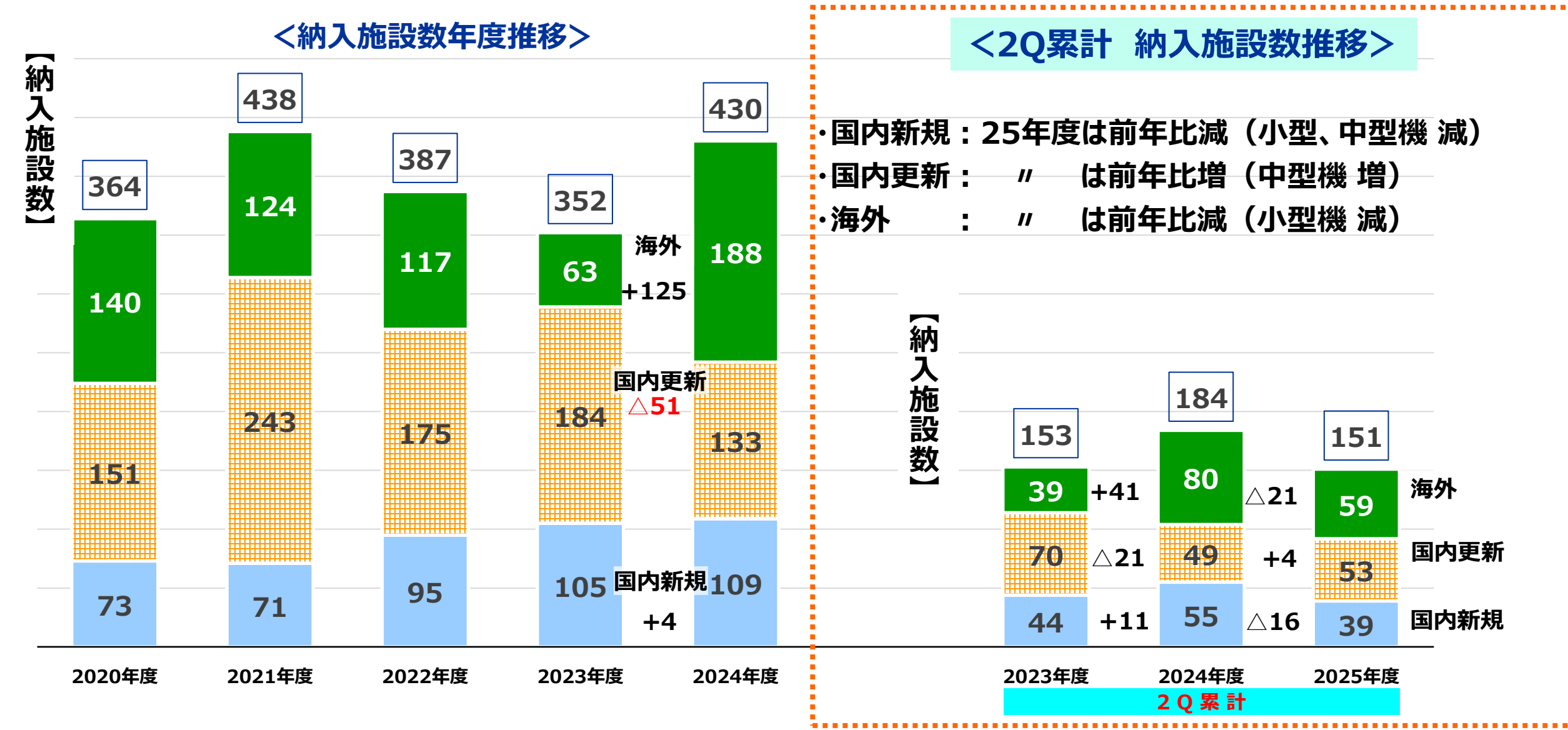
25年2Q累計 売上構成

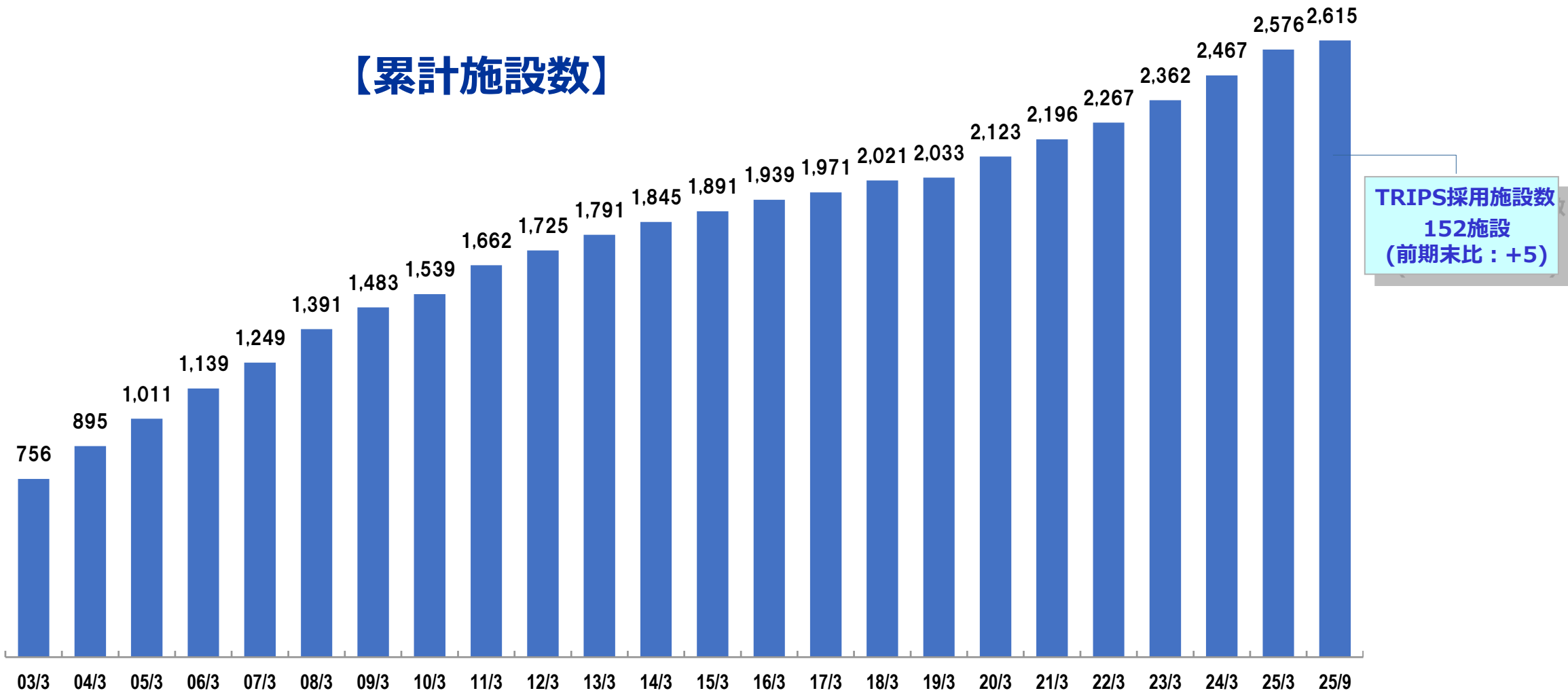


品目区分	24年2Q累計	25年2Q累計	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	1,152	1,099	△52	△4.6%
検体検査装置	296	291	△5	△1.8%
消耗品等	2,669	2,715	46	1.7%
計	4,116	4,104	△12	△0.3%

主力の採血管準備装置・システムの売上が、4Qに集中するため、全社の売上、利益とも4Q偏重









3. 2026年3月期 業績見通し

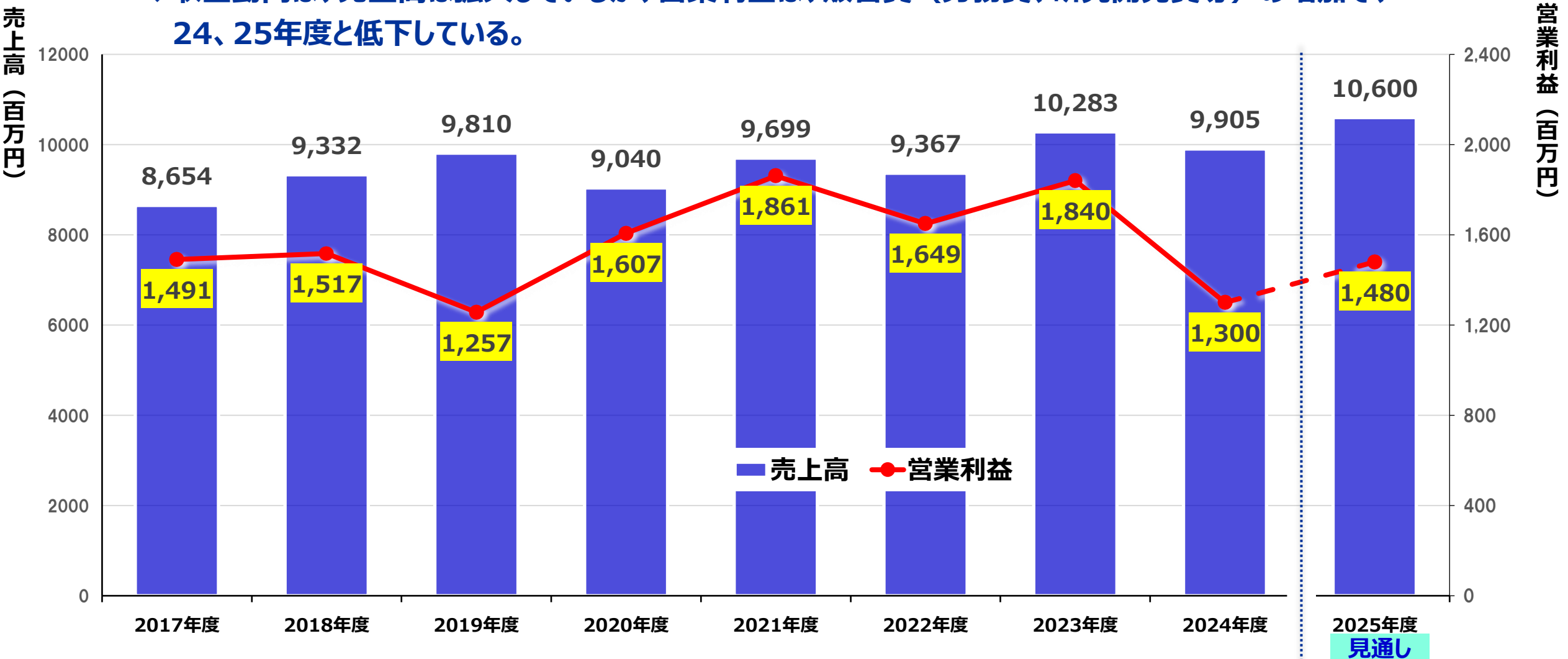
2026年3月期業績見通し 損益計算書 Techno Medica

- ◆ 26年3月期の売上高は、採血管準備装置・システムの着実な受注が見込まれ、対前年増収
- ◆ 営業利益は、販管費の増加（労務費、補修費、他）により、対前年1.8億円増益の見込み

(単位：百万円)

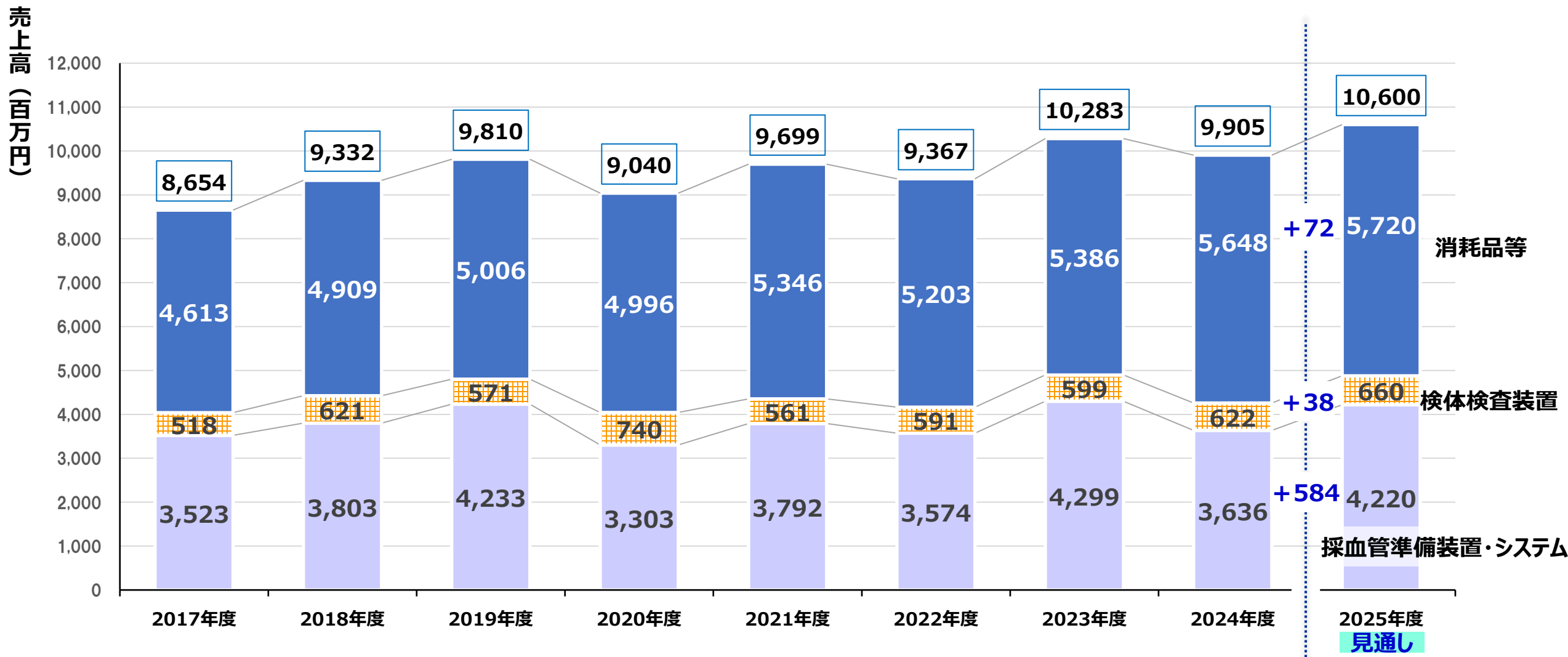
	2025年3月期 実績	2026年3月期 業績見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上高	9,905	10,600	695	7.0%
売上総利益	4,928	5,230	302	6.1%
粗利率	49.8%	49.3%	△0.4pt	
販管費	3,628	3,750	122	3.4%
営業利益	1,300	1,480	180	13.8%
営業利益率	13.1%	14.0%	0.8pt	
経常利益	1,303	1,480	177	13.6%
当期純利益	1,004	1,100	96	9.6%

- ◆25年度は、販管費の増加が見込まれるが、増販により利益の回復を見込む
- ◆収益動向は、売上高は拡大しているが、営業利益は、販管費（労務費、研究開発費等）の増加で、24、25年度と低下している。



品目別売上高推移

◆25年度見通しは、採血管準備装置・システムの売上高が大幅に増加、消耗品等、検体検査装置も堅調の見込み。

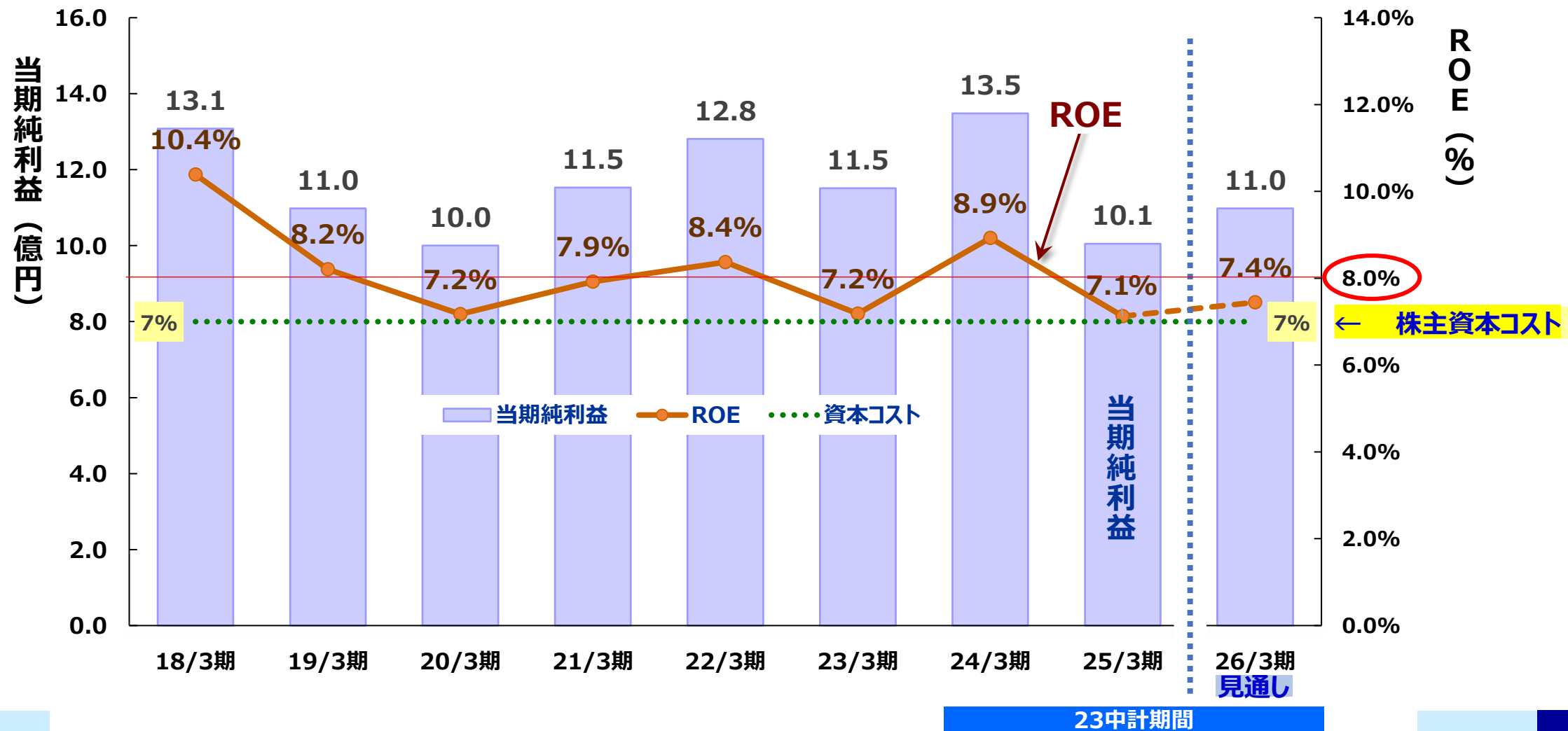




4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (アップデート)

1) ROEの推移

- ◆ ROEは、株主資本コスト7%（株式益利回り（17～24年度（8年間）の単純平均値ベース）を上回って推移。
- ◆ 利益減に伴い、25/3期実績及び26/3期見通しのROEは、8%に届かず。



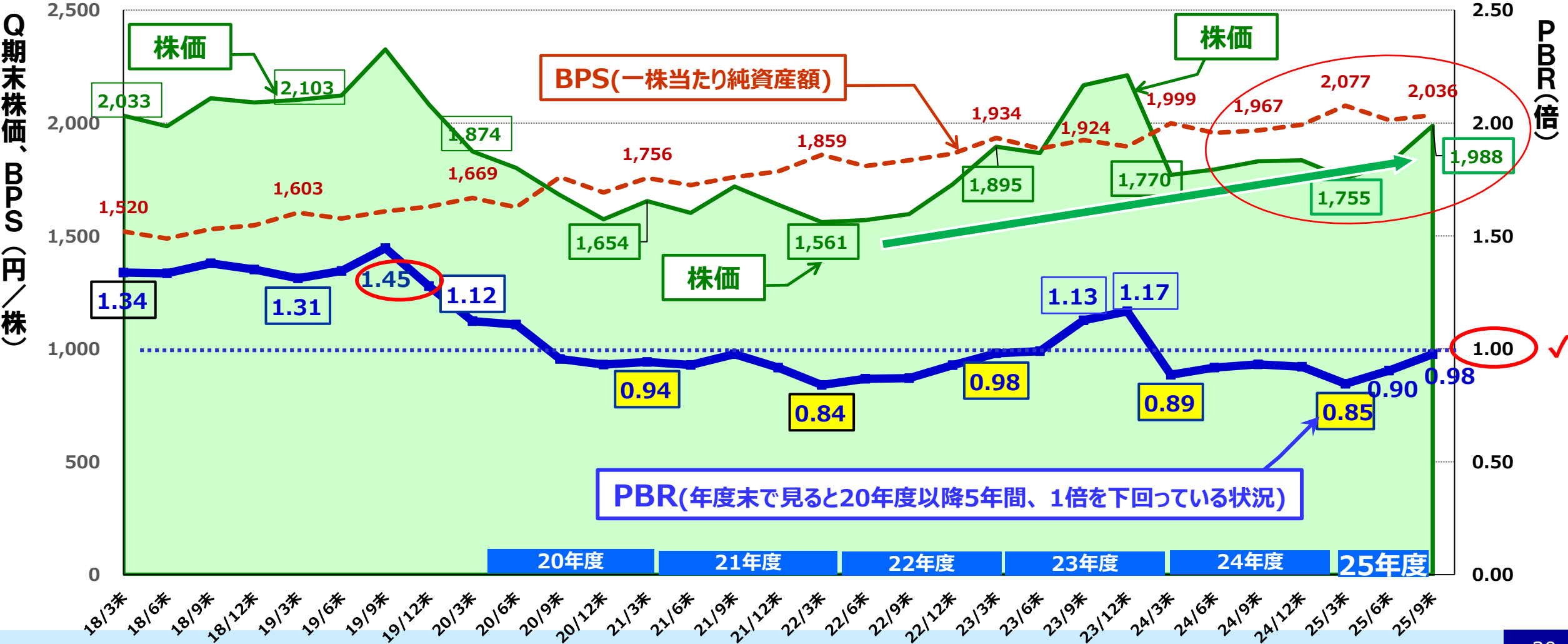
2) 当社の四半期毎のPBR(株価純資産倍率) 推移

TMC Techno Medica

PBR（株価純資産倍率）＝株価÷BPS（一株当たり純資産額（自己株式数を除く））

株価は22年3月末で底を打ち、上昇傾向にあるが、BPSを超えることはできず。よって、PBRは概ね1倍割れで推移。

→PBR1倍超に向けて、収益拡大とともに株主還元（増配、自社株買い）の強化が必要

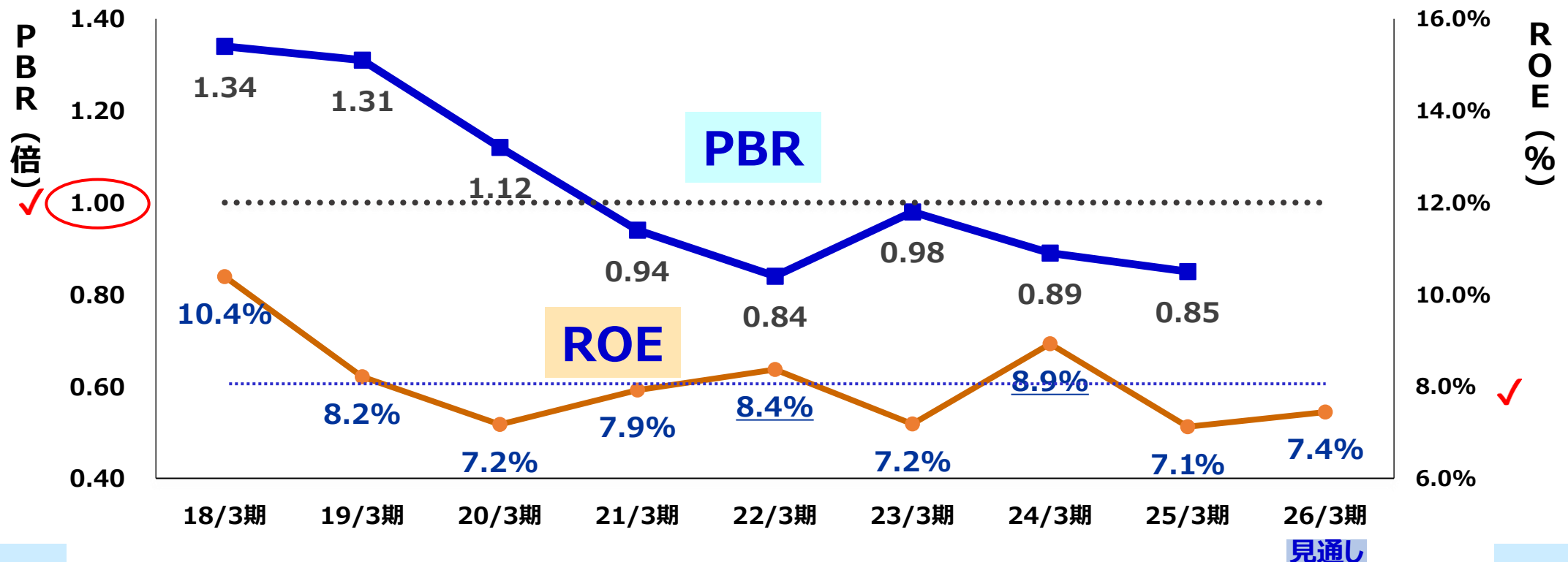


3) 当社のROE(自己資本利益率)とPBRの推移

PBR (株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS (一株当たり純資産額 (自己株式数を除く))

ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 ÷ 自己資本 ((前期末 + 当期末) / 2) × 100

◆ ROEが連続して8%超であった18/3-19/3期においては、PBRは1倍超であったが、
単年度でROEが8%超(22/3期、24/3期)となっても、PBRは上昇せず。→ **継続的にROEを高めることが必要**

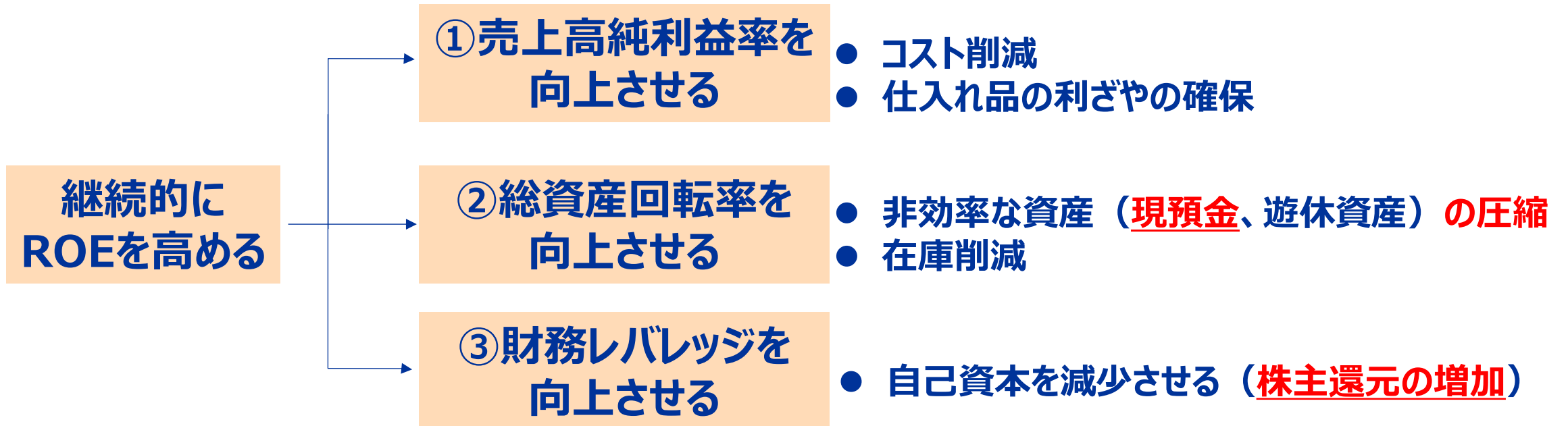


4) ROE向上策

継続的にROEを8%超に高めるべく、持続的成長とともに、以下の施策に取り組むことが必要

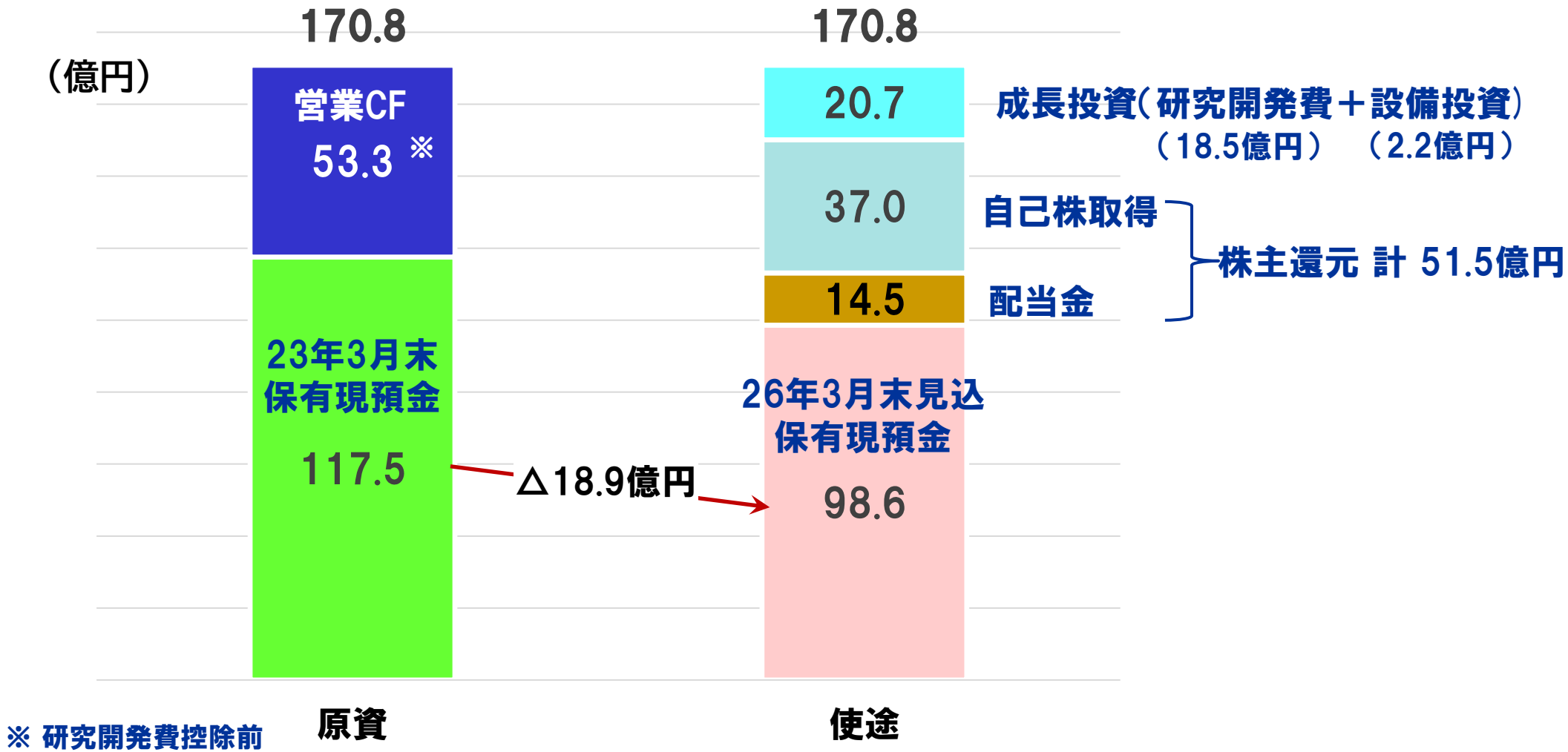
$$\text{ROE} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{純資産}}$$

(①売上高純利益率) (②総資産回転率) (③財務レバレッジ)



5) キャッシュイン・アウト（23-24年度実績＋25年度見込）

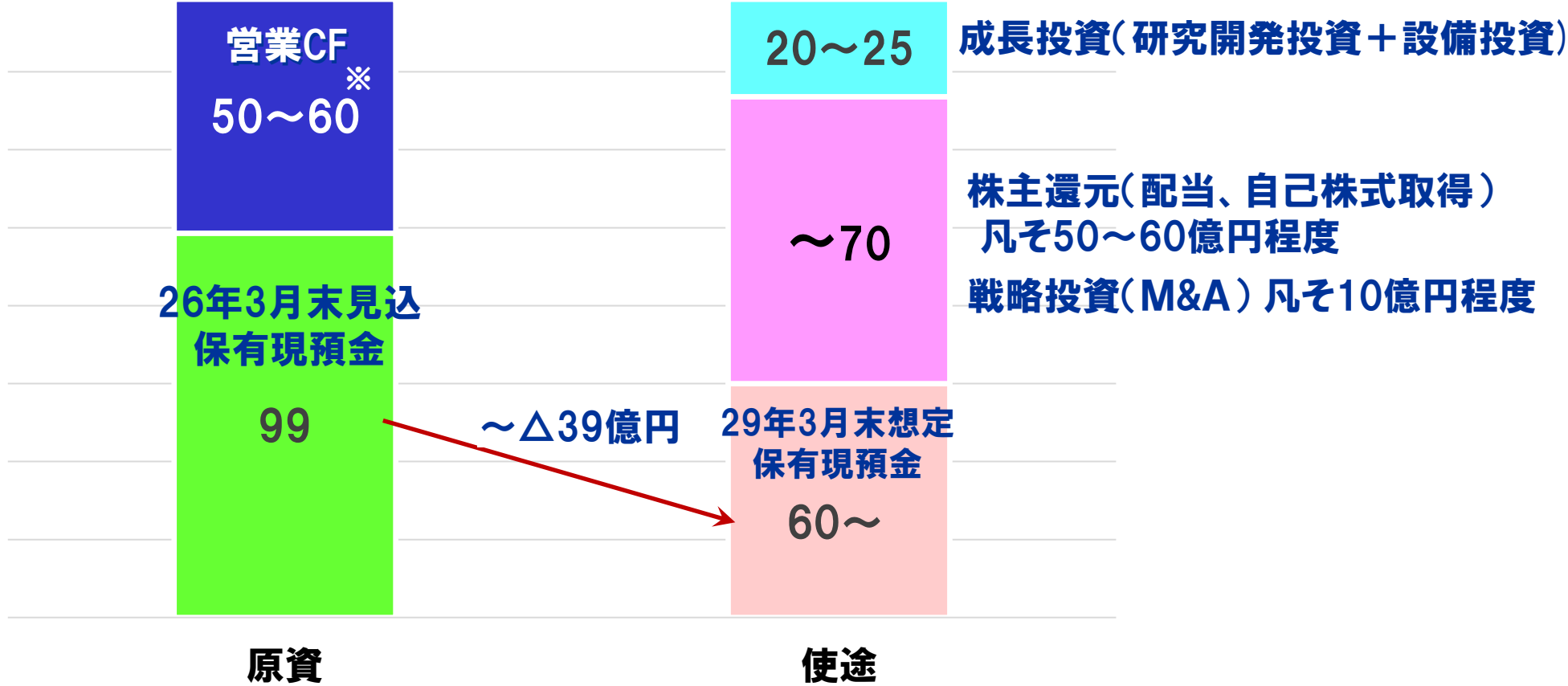
- ◆ 23-25年度の3年間に於いて、成長投資に21億円、株主還元52億円をキャッシュアウト。
- ◆ 26中計に於いて、保有現預金の必要水準を検討し、余剰資金の積極活用を行う。



6) 26中計におけるキャッシュ・アロケーションに関する方針

◆ 26中計方針（現在策定中）として、事業運営に必要な現預金の水準を踏まえ、成長投資、戦略投資（M&A）を実行するとともに、株主還元を強化する。

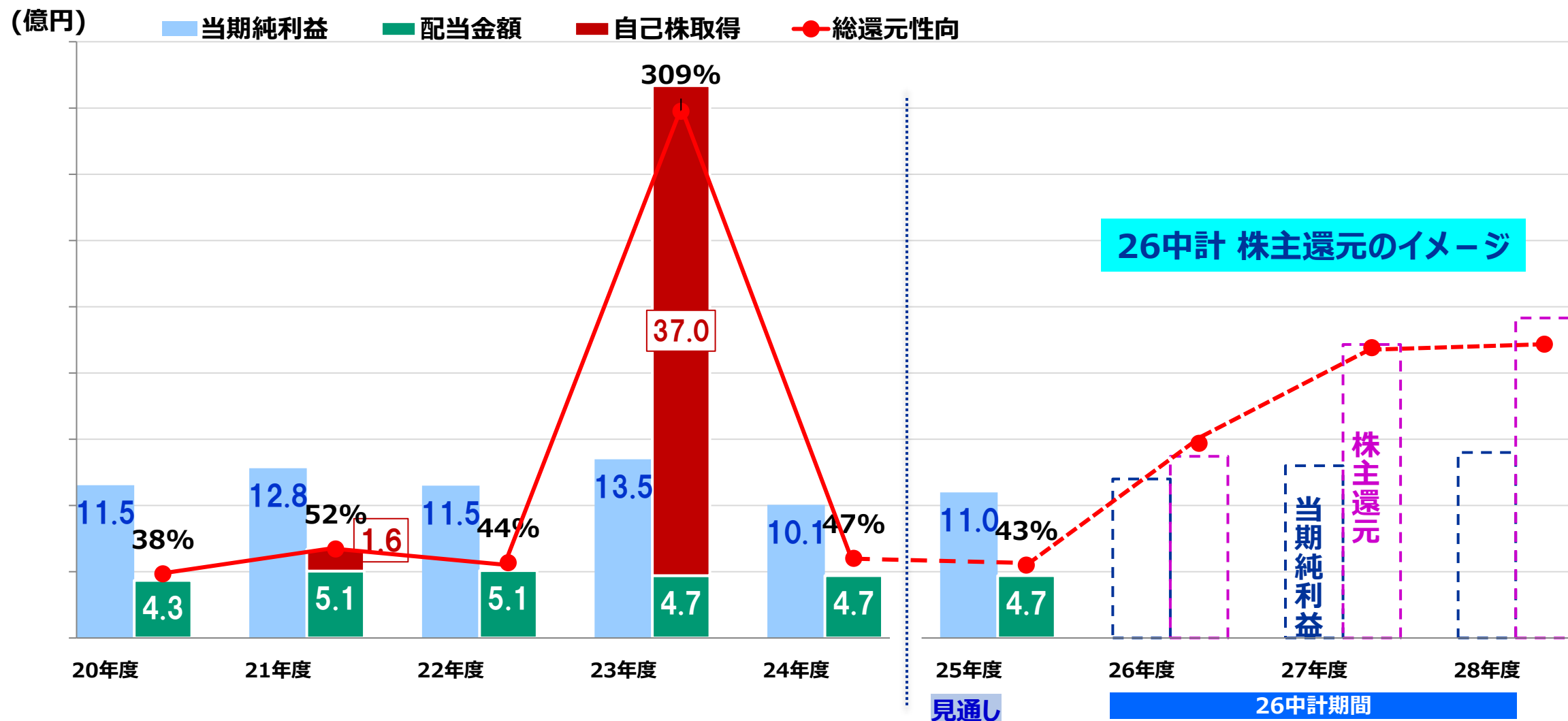
(億円)



※ 研究開発費控除前

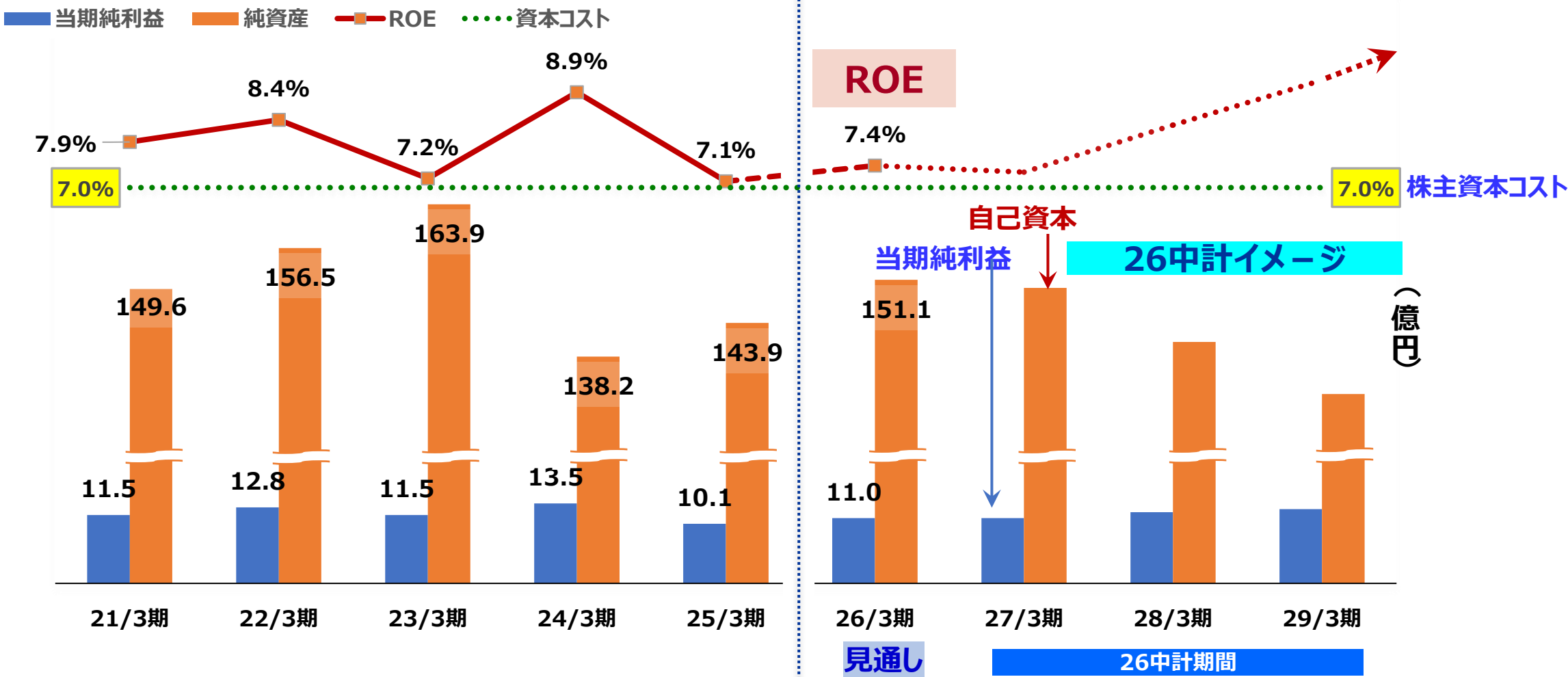
7) 株主還元（26中計方針）

【総還元性向】 26中計3ヶ年において、ROE8%超の継続を目指し、株主還元を強化する



8) 当期純利益と自己資本、及びROEの推移

◆26-28年度の3ヶ年で、収益拡大と共に、株主還元を強化し、継続的なROE向上を図る



＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。

ご清聴ありがとうございました